

平成22年度 光市立三井小学校 学校評価総括表 (平成22年10月実施)

評価基準 4＝達成 3＝おおむね達成 2＝もう少し 1＝できない

教育目標「やさしい子・考える子・たくましい子」	自己評価書			学校関係者評価書						
	年度当初の課題	重点目標	課題解決に向けての取組	評価項目・評価指標	評価基準	評点	目標の達成状況に関する意見	改善方策	評点	評価(取組状況・達成状況に関する意見)
<p>生活習慣は健康や体力・学力向上のベースとなるものであり、長期的に取り組む必要がある。</p> <p>全国学力・学習状況調査から、ゲームやテレビを長時間で家庭学習や家庭での読書が少ないという実態が分かった。家庭でのルールづくりに取り組む必要がある。</p> <p>朝のあいさつ運動を長期継続しており、教師や地域の方に対してはあいさつできるようになってきている。一方で、子ども同士でのあいさつについては、自分からあいさつすることが少ない。</p>	①「早寝早起き朝ごはん、本を読んで外遊び」運動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲームやテレビ視聴の時間をPTAと協力して作成。</li> <li>授業を通して生活習慣への関心を深め保護者にも啓発する。</li> <li>進んで明るく元気なあいさつ20人を実施。</li> <li>各クラスでの呼びかけ。</li> <li>「あいさつ」について全体での講話や指</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「夢をはぐむ家庭の元氣」を活用し家庭学習について見つけなおす。</li> <li>保護者アンケートで家庭内のゲームやテレビ視聴のきまりがある家庭90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>90%以上作成</li> <li>70%以上作成</li> <li>25%以上作成</li> <li>150%未満</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートによると「お子さんどわが家のやくそく」づくりをしたという回答が77.4%、児童アンケートでも78.1%であった。保護者の場合、昨年度後期の回答より28%の向上が見られる。学校や学級での働きかけに、多くの保護者が協力している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見欄を見ると2家庭から「家庭のおしとは何か?いつ配布されたのですか?」という記述があった。9割以上の家庭に協力頂けたため、アンケート結果の分析やわかりやすい連絡を配布したり、達成状況を児童に知らせる等。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>「わが家のやくそく」などは、家庭で当然やらなくてはならない事であることを、保護者に伝えていくべきである。</li> </ul>	
	②児童同士が自分から明るくあいさつができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんななかよく、やさしい言葉を20回を実践。</li> <li>全校児童で「うれしかった言葉の本」を作成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケート</li> <li>「あいさつ運動週1回」</li> <li>児童アンケートで20人達成90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4あいさつ20人達成率90%以上</li> <li>3あいさつ20人達成率70%以上</li> <li>2あいさつ20人達成率50%以上</li> <li>1あいさつ20人達成率50%未満</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートによると、74.2%の児童が「明るいあいさつを一日20回している」と答えている。また、地域の方や保護者から三井小学校の児童は「きちんと気持ちのよいあいさつをよくしてくれませう」との意見</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「保護者から子どもと一緒に取り組みたい」「あいさつを特に重点を置いて取り組みたい」という意見をいただいている。前向きな取組を家庭に伝えていきたいと思う。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日の見守り活動で感じていることは三井の子はあいさつは、どの地区の子どもよりよくしている。あいさつは、ぜひ身に付けてくなくてはならない大切な習慣である。スーパーで出会った時、子どもがあいさつにつられて、親もするようになる。</li> </ul>	
	③正しい言葉遣いができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんななかよく、やさしい言葉を20回を実践。</li> <li>全校児童で「うれしかった言葉の本」を作成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケート</li> <li>「やさしい言葉20回達成90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4やさしい言葉20回達成90%以上</li> <li>3やさしい言葉20回達成70%以上</li> <li>2やさしい言葉20回達成50%以上</li> <li>1やさしい言葉20回達成50%未満</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケートによると、73.5%の児童が「やさしい言葉」を一日20回言っている」と答えている。また、本年度から「うれしい言葉の本」作りに取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「うれしい言葉の本」作りを児童の運営委員会の取組に支援するという形で、児童の主体的な活動にしていきたい。</li> </ul>	3		
	④読書の楽しさを伝え、読書習慣が身に付くようにします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>まず、親や教師が読書する姿を見せる。</li> <li>多様な読書ができるようにし、読み聞かせの実施や選書会の開催。</li> <li>児童文学作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童、保護者アンケート</li> <li>親子読書達成保護者50%、教師の読み聞かせ100%</li> <li>図書貸出し冊数調べ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4図書貸出し冊数アップ10%以上</li> <li>3図書貸出し冊数アップ5%以上</li> <li>2図書貸出し冊数アップ0%</li> <li>1図書貸出し冊数減少</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書委員会による貸出し数調べ、PTA予算に児童図書架の枠を設け魅力のある本が増えたこと、ブックトークと児童による選書会、学級での熱心な読み聞かせ(前期119回)により、昨年同様に23%貸出し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本作家によるお話し(11月)開催。(5年次)山口県PTA連合会の研究指定校「家庭・学校・地域の連携で、子どもに読書の楽しさを伝えるPTA活動」の研究推進を行う。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度力を入れて読書範囲を広げる良い取組である。</li> </ul>	
	⑤教師の授業力の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>進んで授業公開。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員一人一回以上授業公開</li> <li>保護者による授業評価</li> <li>教師への観察項目「肯定的評価80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4授業への肯定的評価80%以上</li> <li>3授業への肯定的評価70%以上</li> <li>2授業への肯定的評価60%以上</li> <li>1授業への肯定的評価50%未満</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケート「お子さんは、授業が分かりやすく楽しいと言っている」75.3%「先生は、地域の人材や専門家を活用するなど工夫した指導をしている」71.7%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>91%分がやりやすく楽しいと受け止めている児童のいる学級と、48%しか分がやりやすく楽しいと受け止めていない学級があるの</li> </ul>	3		
	⑥体験活動をしっかりと取り入れる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の人材や、専門家を活用した学習を行います。</li> <li>キャリア教育の視点からも、体験活動を見直します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの活動を振り返り、学年2回以上の体験活動を実施します。</li> <li>キャリア教育の視点からも、体験活動を見直します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4全校で、12回以上の体験活動を実施</li> <li>3全校で、10回以上の体験活動を実施</li> <li>2全校で、8回以上の体験活動を実施</li> <li>1全校で、6回以上の体験活動を実施</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケート「お子さんは、授業が分かりやすく楽しいと言っている」75.3%「先生は、地域の人材や専門家を活用するなど工夫した指導をしている」71.7%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>91%分がやりやすく楽しいと受け止めている児童のいる学級と、48%しか分がやりやすく楽しいと受け止めていない学級があるの</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>市や県で表彰されるくらい「緑のカーテン」の活動が素晴らしい。自分が作ったゴーヤなら食べる事ができるようにする。</li> </ul>	
	⑦交通安全事故、けがを減らします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全教室を実施。</li> <li>安全な廊下歩行を指導。</li> <li>被災時の振り返りを児童と行い、指導に生かす。</li> <li>交通ルール</li> <li>全児童との教育相談、そうだんアンケートを実施。</li> <li>全校体制による個別支援。</li> <li>支援チーム会議を開き、組織として対応し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>病院で治療の必要なケガ(スポーツ振興センター調べ)で20年より5%減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>45%減少</li> <li>33%減少</li> <li>2変化無し</li> <li>1増加</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成20年の基準年の前期14件と同数で、取組をはじめる前と後退けてしまった。3分の1は6月であり、ケガが後手という危機感をもったが、対応が後手に回ってしまった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケガの原因を調べると、ケガの理由や原因を全校児童に伝えることで、ケガが少なくなるのではないかと。</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>当事者に振り返りをさせるだけでなく、ケガの様子や原因を全校児童に伝えることで、ケガが少なくなるのではないかと。</li> <li>禁止事項を増やすだけでなく、遊びをとおして大きなケガをしない防衛能力を付けるべきである。</li> </ul>	
	⑧教育相談体制の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員向け文書の裏面利用とA版化</li> <li>用紙の両面使用</li> <li>校内文書の必要度の見直し。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全児童との教育相談(年3回)</li> <li>児童アンケート実施</li> <li>自己肯定感をもつ児童90%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>490%以上が自己肯定感をもつ</li> <li>380%以上が自己肯定感をもつ</li> <li>270%以上が自己肯定感をもつ</li> <li>1自己肯定感をもつが70%未満</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己肯定感の集計が11月になるので評価点を記述していない。「学校は楽しいですか?」という児童アンケートの結果は、昨年度末が91.7%であったが、今年度前期は87.2%と5%減少している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>99%楽しいと受け止めている児童のいる学級と、84%しか楽しいと受け止めていない学級があるの</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>本日の講演で講師の方が言われたように、親は人権教育をすべて学校に任せきりではない。</li> </ul>	
	⑨加重労働による健康障害防止。	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員向け文書の裏面利用とA版化</li> <li>用紙の両面使用</li> <li>校内文書の必要度の見直し。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員向け文書の裏面利用とA版化</li> <li>用紙の両面使用</li> <li>校内文書の必要度の見直し。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4年休取得平均15日以上</li> <li>3年休取得平均13日以上</li> <li>2年休取得平均10日以上</li> <li>1年休取得平均昨年並み</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規採用教員、臨時任用教員を除く15日から10月までの平均取得時間9.3日。12月に換算すると11.2日とあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度の年休取得9.6日から比べると増加になるが、充分な業務改善が行われたとは言いえない。長期休暇の計画年休取得に向けての働きかけが必要である。</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>総教関係者評価委員の総括意見</li> <li>校長の総括意見</li> </ul>	
	⑩校内文書の精選と減量化	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員向け文書の裏面利用とA版化</li> <li>用紙の両面使用</li> <li>校内文書の必要度の見直し。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員向け文書の裏面利用とA版化</li> <li>用紙の両面使用</li> <li>校内文書の必要度の見直し。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>45%以上削減</li> <li>33%以上削減</li> <li>2昨年並み</li> <li>1増加</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>21年度4月から10月までで150,500枚の紙を使用した。平成22年度同期では113,500枚と約25%削減。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内文書の裏紙活用、作成冊子の内容精選、ファイル共有の活用することでのペーパーレス、コピーやプリンタ使用時の金額表示等が効果的であった。</li> </ul>	4		